

第3回豊明市高齢者福祉計画策定・推進委員会議事要旨

1 日 時

令和8年7月30日（木）午後2時から午後3時まで

2 場 所

豊明市役所新館1階会議室6

3 あいさつ

交代となった委員の紹介

4 議題及び議事概要

（1）高齢者等実態把握調査の結果概要について

（2）第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定方針・スケジュールについて

（1）（2）の議題について資料を基に説明した。

【質疑応答】

委員

住民健康実態調査の配布数と回収率は在宅介護実態調査と在宅生活改善調査の結果も含めたものと考えてよろしいか。

事務局

在宅介護実態調査と在宅生活改善調査については別途集計を行っている。在宅介護実態調査については998件配布中617件回収で61.8%の回収率となる。在宅生活改善調査についてはケアマネジャーに調査を依頼し、各ケアマネジャーが担当する被保険者について回答を行うため、回収率という概念がない。

委員

在宅介護実態調査についても、報告書に回収率などを記載するとわかりやすい。

委員

豊明団地に対していくつかの課題が提示されたが、原因や対策を計画に盛り込む予定はあるか。

事務局

豊明団地の指標に他圏域と差があった一つの要因としては、単身世帯が多いことや、高齢者の中でも 75～84 歳の占める割合が大きいことが考えられる。

豊明団地への取り組みとしては平成 26 年よりけやきいきいきプロジェクトという事業を UR・藤田医科大学・豊明市の包括協定により執り行っているが、年数回実施しているけやきいきいきプロジェクト会議においても、外国の方が増えていることや、高齢化率が市内でも群を抜いて高いということが現状として確認されている。

身近な相談先としてまちかど保健室や包括支援センターの分室を置くこと等の取り組みは従来から進めているので、今回の調査結果も踏まえて、新たにどのような取り組みが必要なのかも検討していきたい。

委員

報告書より、固いものが食べにくくなったかという指標や入れ歯を利用しているかといった指標が令和 4 年度の調査時より改善しているが、その要因にはどのようなことが考えられるか。

事務局

介護予防の取り組みの中で口腔の機能向上は引き続き行っている所以その効果が出てきたこともあるかもしれないが、戦後生まれの方が増えて栄養状態が改善した可能性等、色々な要因が考えられる。

委員

「自分は固いものが噛める」と判断するかどうかは本人の主観的な感覚の問題もあるため、判断が難しい。

委員

全体だけを見るとなかなか答えを出すことが難しいので、仮説を立てながら進めていくことでより要因を詳細に分析できるとよいと考える。

委員

豊明市の高齢者を取り巻く環境状況の中で、「地域の健康づくり活動への参加者は増加傾向にあるが、参加しない層への働き方が課題」というところがあるが、実際に活動していて、女性は参加してくれるが男性が全然参加してくれないという点を非常に課題だと感じる。こういった問題はどうしたらよいのか。

事務局

全国的にも男性の参加者が少ないことは課題になっている。今後の計画策定において、いい意見を取り入れていきたい。

委員

今言われた高齢者を取り巻く状況や北部圏域の課題等を施策体系案に落とし込むべきではないか。初めから決めた方向性に内容をつなげるより、調査でわかったこと等を方向性にしていくべきでは。

委員長

例えば参加しない層への働きかけの課題等で、現時点の方向性と課題との間の説明が書ききれてないから反映していないように見えるだけで、繋がっているかもしれないのではないかと思うが、事務局からの補足はいかがか。

事務局

確かに、課題との繋がりが説明不足になっている点がある。詳細は次の素案を示すタイミングでまた提示するが、主な方向性の部分については現時点の方針であり、細かいところまで詰めきれていない。今いただいたご意見も含め、今後検討を進めていく。

5 出席委員

11名

6 傍聴者

0名